

嵯峨宮頼り

第36号

嵯峨宮：群馬県みどり市大間々町小平 348 番地

<http://www17.plala.or.jp/sagagu/>

発行日：2024 年 7 月 10 日

発行：嵯峨宮世話人会



折の内經由鳴神山産廃投棄問題
更にゲートで通行止め
更に更に 県外業者二人逮捕

四月十八日付新聞に逮捕記事が載って産廃ダンブが来なくなりホッとしたのも束の間、五月十一日から再び一週間位来続けた。警察も毎日監視していたが、いない時間を見計らっ

林道を通行止め
4.5ゲート設置検討
2024年 無許可土砂
鳴神山に20立方メートル超
無許可土砂搬入2人逮捕

て搬入され、朝暗いうちから監視する等御苦労されたようだ。六月五日の上毛新聞によると桐生市は通行規制ゲートを設置したとある。又六月二十日の同新聞には茨城県の産廃業者二人を土砂2500m³



超無許可搬入したとして逮捕したようだ。

逮捕や行政処分で一件落着に見えるが、投棄された産廃を元に復す作業は微塵も見えない。結局は地元性の捨てられ損となる可能性が高い。産廃不法投棄は確信犯が多く、捨てた者勝ち、反社の世界である。暴力団は事前に取り締まるも産廃業者は殆ど事後である。行政的に産廃廃棄物処理が十分できていない現状のシワ寄せ先となっている。監督官庁・地元民・林業団体で、道や橋を一時的に狭める物理的クイックな通行規制ができる様事前協議を結ぶ等、自衛対応策が必要だろう。

市議会で質問 柴崎訓佳議員 谷山(やつやま)城の開発を …スマホで傍聴！

みどり市議会令和六年第二回定例会が六月十日に開かれた。柴崎議員が小平

- 2. 小平の里の新たな観光名所の取組について
(1) 歴史ある谷山城の取組について
①小平の里の利用状況について
②公共施設等総合管理計画による各施設の対応について
③谷山城を名所とした新たな取組について



産業観光部長 柴崎 訓佳 議員

の里の新たな観光名所の取組として谷山城址の開発を提案した。谷山城は小平の里キャンプ場の南約1000mの山頂を50m位削平した山城で、桐生市との境に存在する。戦国時代の天正二(1574)年、上杉謙信に攻め滅ぼされた。その時の謙信の書状に「男女悉くまで切りにした」と記されている。(天間々町誌) 県外からも歴史愛好家が時々訪ねて来る。山城故四方は急峻で道も全く整備されていない。数年前仁田山区の住人が山から転落、レスキューで運ばれた。小平の里利用状況や施設の整備、湿性植物園の方

向性について柴崎議員が質問し、産業観光部長が回答した。前日同議員は地元民と谷山城址へ登山して谷山城の質問はより鮮明だった。落城の悲惨な過去を平和教育に生かすべく平和の鐘や展望台、安全に登れる登山道を要望した。 同部長は、三十分で登れるので健康志向やトレッキングを楽しむ方むけに検討したい、又小平活性化対策は桜を植え地域活性化を図る地元団体の植樹支援をしている、谷山城址は官民連携して盛り上げる様検討すると回答した。 インターネットの普及によりスマホやタブレットで「みどり市議会中継」↓「議員名一覧」と検索すれば議員の議会活動を簡単に何時でも傍聴できる。議員の質問や役所の回答の仕方等表情まで読み取れる。やる気があるのかないのか、身近な課題はテレビドラマよりも面白い。

「市長と未来トーク」
小平六月十八日実施



市は市長と随行の秘書課長・同係長の三人が小平公民館に集まった。

山田郡誌「里俗の説に昔嘉暦の際武士七名あり…」は小平草創のくだりである。嘉暦元(1326)年から数え再来年(2026)で小平は七百年になる。人口減少は全国地方の共通課題、今更どうにもならないが付随発生する問題や未来への教訓として為すべきことはあると思ひ、小平の将来を市長と共に考えることとした。生憎の雨天の中、小平サイドは嵯峨宮世話人会と町会長・区長の十三人が、

出席者紹介後の挨拶で、阿久津総代は七百年の温故知新を掲げた。一つは過去の無関心無責任のツケを正し未来へ禍根を残さない、二つ目は地域の過去の尊い経験を総ざらいし、活かし未来へ伝えること。

そして隠岐の島の地域おこしは町長の決断一つが変えた例を話した。関口町会長は山林80%の小平の地域・里づくり環境譲与税を使えればうれしい、と。又須藤市長は人口減少社会では不易流行が大事、みどり五つのゼロ宣言でCO2削減を目指す。森林の保全機能に森林環境譲与税を充てたい、都会と包括連携を進めている、地域の方々が活動し易い様にサポートしたい、と。

次にテーマ説明に入る。

- ① 山林管理について
- ・集中豪雨による山崩れ
- ・傾斜地崩壊危険区域看板の誤立
- ・耕地整理時山林への馬入れ忘れ

により木を伐りたいが伐れない、伐っても搬出できず山林管理出来ない。市道から水路を超え山へ行ける安全なスロープを掛けて欲しいと訴えた。市長は「嵯峨宮は文化財認定になつていないのか？申請は上がっているのか？」

「多分申請はしてない。」
「地域全体が自然公園みたいなもの、大杉や正福寺の欄間・天井壁画も褒められていて、地域の資産に磨きをかけてほしい」と。

② 小平七百年祭について
この節目を地域活性化の好機と捉へ七百年祭をやるうと決めた。メニューは次の事を考えている。

- ・本祭 式典
- ・前祭 講演会、ルーツ探索
- ・記念事業

- 小平名跡地看板が碑設置
- 小平小字(こあぎ)名杭
- 小平の本(昭和・平成)

- 地域食(とこ料理・いる飯)
- 谷山城の開発

何れも小平に謂れを持ち、

後々迄語り継ぐ話である。

小字名杭は人口が減つて地名は分つても場所を分る人がいない対策である。明治の町村合併時県令で「小字名は歴史など重要な要素」と改変を禁じた。

小平の本とは老談記、戦前の話は町誌に記載されており、その後の昭和・平成の話を残したい。

地域食ところは、天保の大飢饉で小平が五十六人の餓死者を出したとき、高倉山に登って掘り食した山芋に似た根だが容易には食えない代物、いろ飯はボンガラ(八月十七日に女性をいたわるためのもので醤油飯、さくら飯ともいう。

谷山城は既に嵯峨宮頼り18.ノ20号で説明したが、戦争の悲惨さは今日のウクライナ戦争も谷山城落城も変わらない。いつ日本が巻き込まれるかもしれない。そうならないため普段から平和教育をし、人材を育てる事は最も大切であ



る。なお谷山城址は桐生市との境にあり、両市協力の元での開発が必要である。以上について専門的、資金的な協力をお願いしたい。

市長は「人口減少で理想論はあってもやる人がいなければできない、現実を見据え対策を講じるなら市の方でもしっかり汗をかきたい、文化財課、農林課、小平の里、産業観光部と連携し、専門家のアドバイスを頂きながら行けたらと思う。」

会議終了後の余談で「レコード屋頑張ってますか、若手がどんどん移住し小平の自然を気に入ってくれるといいね」と市長。いや、移住よりUターン、Uターン！と老世話人。子供達が地元に住みたくなる地域づくりこそ一番大切な活動、耳が痛い。(阿直)